

今後に向けた具体的な課題

平成18年12月に中央防災会議の専門調査会でとりまとめられた「災害被害を軽減する国民運動の具体化に向けた取組について」において、防災に関する7つの具体的な事項が挙げられているところであるが、それらを中心に、今後に向けた具体的な課題を、以下の通り整理した。

1. 「枠組み」の構築について

防災に関する国民運動（以下「国民運動」）を推進していくための枠組みとしては、どのようなものが考えられるか。

例えば、企業団体等による取組をできる限り民間主導で継続的にサポートしていく推進組織を考える場合、どのような主体が望ましく、また、国としての関与はどうあるべきか。さらに、内容が多岐にわたる民間での取組に一体感を持たせるための共通の仕掛けにはどのようなことが考えられるか。

2. 環境整備について

国民運動が自律的に推進されるための環境の整備（インセンティブ）に関わる課題としては、どのようなものが考えられるか。

1) 全体

国民運動の環境整備全体に通じる問題としては、以下のものがあるのではないかと。

- ・「人」、「事」、「物」、「金」、「環境」の5つの要素それぞれについて、どのように展開していくかが重要ではないか。
- ・企業・団体等による取組ができる限り民間主導で継続的に行われることが必要。そのための国としてのサポートの体制にはどのようなものがあるか、また、国として地域における活動を支援する仕組みにはどのようなものがあるか検討する必要があるのではないかと。
- ・防災に関わる国民運動を総合的に推進するモデル的な事業の実施が必要ではないか。
- ・自治体にとっては、地域支援企画員のような住民活動の支援策が重要ではないか。

2) コンテンツ及び情報ライブラリの整備

防災に関するコンテンツの提供及び情報ライブラリの整備にかかわる課題としては、以下のものがあるのではないかと。

- ・まず、取組手法の事例紹介、防災に関わる人材の紹介、防災に有用な図書の紹介、わかりやすい教材、自分の住む地域に関する情報といった防災のための国民運動に不可欠な「コンテンツ」として、更に具体的にどのようなコンテンツを整備・充実することが必要か。特に、災害をイメージする能力を高めるコンテンツが重要なのではないかと。
- ・次に、様々な防災教育のためのコンテンツが作られているものの、その認知度は低いことから、内閣府の「情報ライブラリ」を整備し、コンテンツを使い手の目的に合わ

せて配置（誰が、どんな場面で、どのように）し、他の防災サイトとの間に積極的なリンクを貼るなど、「使い勝手」の向上が必要となるのではないか。

- ・また、認知度を高めるためには、「人」、「金」、すなわち、それらコンテンツの存在・内容を正しく伝えることのできる人材を育成すること、また、コンテンツの作成段階での費用、また、完成後数多くの部数を作成し広範に広めるための印刷費などの資金が、必要になってくるのではないか。

3) ロゴ・マーク等の制定 等

いわゆる「ロゴ・マーク等の制定」については、以下のことが考えられるのではないか。

- ・災害における強度等、製品の性能を評価・保証するような性格のマークだとすると、それを認証する組織をどこにするか、マークをつけた製品により事故が発生した場合の補償問題などを考慮すると、様々な問題があり、かなり困難なのではないか。
- ・一方、「ピンクリボン」キャンペーン、「チーム・マイナス6%」におけるそのように、その趣旨に賛同する者が自由に使えるマークのようなものであれば、導入は比較的容易であり、受け容れられやすいのではないか。
- ・こうした点を含め、マーク導入により目指す目的を明確にし、導入効果、対象とする活動、実施体制等について検討が必要ではないか。
- ・さらに、ロゴ・マークの制定を「防災と関連付けた企業活動の促進」へとつなげる方策として、有効な仕組みについて、検討を深めることが必要か。

4) 重点課題の設定

国民運動の推進には、「重点課題」を設定することが効果的であるとの観点から、以下のことが考えられるのではないか。

- ・「家具の固定」及び「建物の耐震化」が、特に重要な重点課題と考えられるのではないか。
- ・「家具の固定」については、現在、引越し業者により行われているものがあるが、業界団体等への働きかけにより、それを更に促進させることが重要ではないか。
- ・「建物の耐震化」については、必ずしも取組みが進んでいるとは言いがたい。まずはその理由を掘り下げる検討を行う必要があるのではないか。
- ・それらを主体的に進める人材や、その育成方策などの検討も必要ではないか。地域におけるこうした取組を進めるため、国として活動を支援する仕組みが必要ではないか。
- ・さらに、災害時の課題、すなわち、要援護者情報の取扱い、災害伝言ダイヤル、避難所のあり方、などが課題となるのではないか。

5) 国民運動のノウハウの蓄積と活用

国民運動については、将来の災害に備えるため、継続的に行われる必要がある。これについては、以下の点が重要と考えられるのではないか。

- ・人が集える場の増加、メンバーの新しい興味を引くインプットを得ることにより、ノウハウが蓄積されることになるのではないか。
- ・内閣府等が、相互の仲介（団体、コンテンツの紹介、講師の派遣等）の役割を果た

- したり、防災の専門家が支援役(わき役・応援役)となることが必要なのではないか。
- ・各組織・団体の取組が評価され、「マネをしたい」と思わせるようなプロセスが必要なのではないか。

3 . その他の課題

その他、国民運動を推進する上で効果的と思われる、個別・具体の課題としては、どのようなものが考えられるか。